

No. J02	まっちゃん	年月日	令和5年2月2日(木)
---------	-------	-----	-------------

設問

[問い1] 今だったらどんな質問ができるか

(1) 申し訳ございません、私少し耳が遠いので、普段より大きい声でお話し頂けますでしょうか？

(2) 迷われていると仰っていましたが、どのような点で迷われているのでしょうか？

(3) 一緒に頑張ってきて、昇進した同期に対して今改めて、どのような思いがあるのでしょうか？

(4) 自分なりに頑張ってきたと仰いましたが、どんなことを頑張ってこられたんですか？

(5) 今回、上司の方からの昇進の話はどなたかにお話されたことはありましたでしょうか？

(6) 今回の昇進の話が、今更と仰っていましたが、どうしてそのように思われるのでしょうか？

[問い2] 良かった点と悪かった点 (各2行)

事例Ⅰの CCt8 (相応しい・相応しくない)

(良) 営業事務として働かれています中で向いているんじゃないかという感情や営業の方をサポートできている時に感じている喜び等を聴くことができ、信頼関係を序盤に比べて構築することができた。

事例Ⅱの CCt9 (相応しい・相応しくない)

(悪) 相談者の話が聞き取ることができず、当初意図していた質問とは焦点を変え、別の質問をしていた場面があり、相談者が話したい内容を聞くことができていなかった可能性が高いという点。

[問い3] クライアントの主訴

現在、20年以上営業事務として働いているが、上司から昇進と同時に営業職に就かないかと話があった。入社当時は、昇進したいという思いが強く、同期と共に仕事に前向きに取り組んでいた。しかし、同期は既に昇進しており、相談者は営業職として働きたいと上司に相談していたが、それができなかったため、昇進は諦めて営業事務として仕事に邁進して来た。営業事務の仕事も自分にあっているんじゃないかと思っており、今更職種を変えることに対して迷いが生じており、相談に来た。

[問い4] 今後の展開 (どのように進めるか)

営業事務として営業をサポートしていることに対する感情を丁寧に傾聴しながら、昇進に対しての今更という思いや突然でビックリしている感情を掘り下げ、冷静に今後のキャリアについて考えられるように促す。その上で、営業の仕事について上司や人事部へ確認することを提案し、仕事内容や、昇進後の仕事についての理解を促す。また、これまでの営業事務としての仕事について、経験の棚卸しを行い、経験・スキル、または仕事に関する価値観の理解を深めてもらう。上記により、相談者が自身のこれからのキャリアについて主体的に意思決定ができるように支援していくことを方針とする。